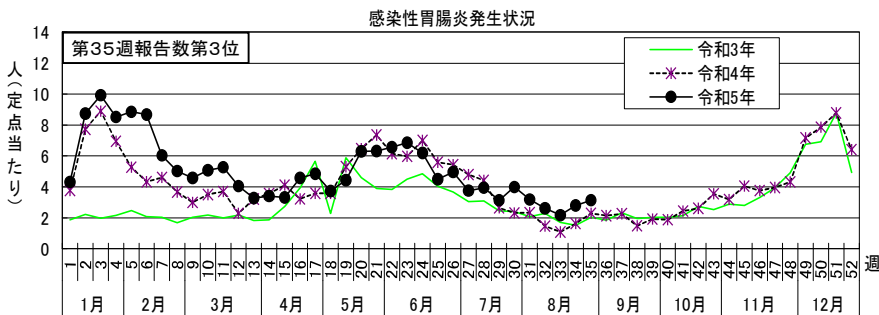
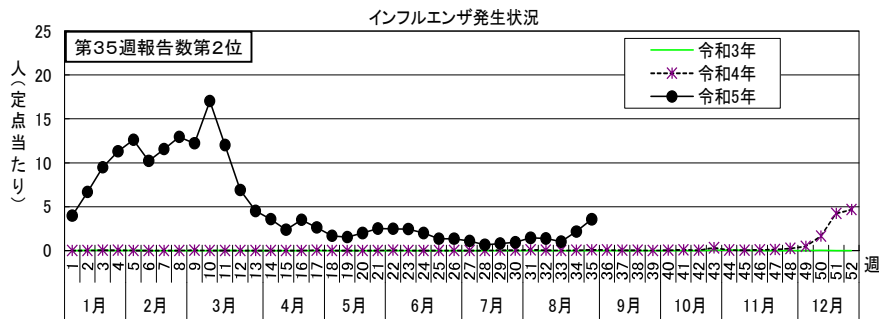
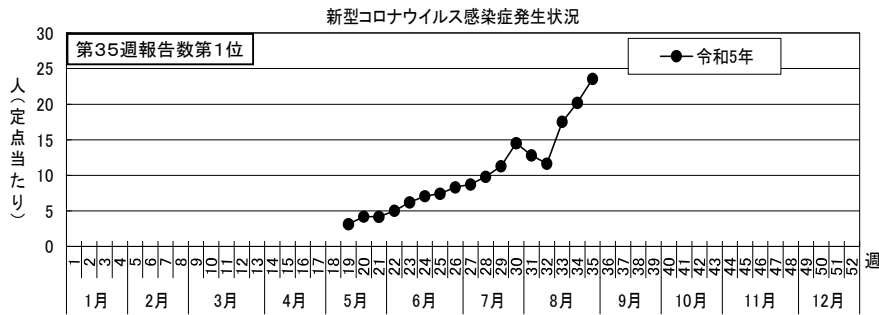


# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

令和5年8月28日（月）～令和5年9月3日（日）〔令和5年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) インフルエンザ 3) 感染性胃腸炎でした。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は23.56人と前週（20.20人）から増加しました。インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.54人と前週（2.15人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.14人と前週（2.81人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

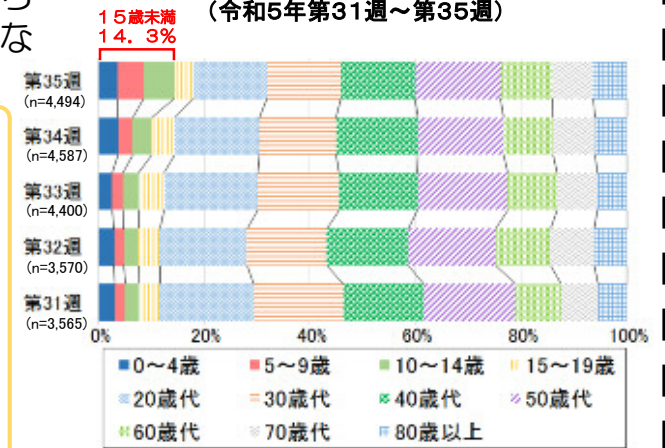


## 新型コロナウイルス感染症～小児の割合が増えています！～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、令和5年第35週（8月28日～9月3日）も23.56人と増加傾向が続いており、特に8月下旬以降は15歳未満の小児の報告割合が増えています。本市が独自に実施している新型コロナウイルス感染症のリアルタイムサーベイランスにおいても、同時期から15歳未満の小児の報告数が増加しており、第35週の報告に占める割合は14.3%となりました。

夏休みが終わり学校等が再開されたため、小児の報告数は今後更に増える可能性があります。学校等での感染拡大を防ぐため、発熱や咳等の症状がみられる場合は登校を控え、症状がなくなるまで自宅で休養しましょう。

リアルタイムサーベイランスにおける  
新型コロナウイルス感染症の年齢階級別報告割合  
（令和5年第31週～第35週）



### 小児における 新型コロナウイルス感染症の注意点

- ・小児は軽症が多いとされていますが、2歳未満の乳幼児及び基礎疾患のあるお子さんは、けいれんを起こしたり、脳症や肺炎を合併する等、重症化しやすいと報告されています。
- ・小児においては、呼吸器症状だけでなく、悪心・嘔吐や下痢、発しん等がみられることがあります。お子さんの体調が優れない場合は、小児科に御相談ください。

令和5年9月5日11時時点の川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）データより作成